

記者会見録(要旨)

日 時 令和8年3月24日(火) 午前10時から
場 所 第2応接室
出席者 ○市側：市長、町田副市長、総合政策部長、健康こども部長
○記者側：12社13名参加
発表内容 ・FIGHTERS 応援パーク 2026 の開催について
・JR 新千歳空港駅から苫小牧方面へのアクセス向上について
・「こども どまんなかアクション」フィナーレイベントの開催について

<案件について>

○苫小牧民報社

ファイターズ2軍誘致の関係ですけれども、先日の報道で自治体が3つに絞られ、期間はもう3ヶ月を切っているというところだと思うのですが、ここまでの交渉頻度とか今後どういう頻度で交渉を行っていくかとか、中身は決まっていますか。

■市長

ファイターズさんとはこれまで様々なレベルで交渉を重ねてきておりますが、具体的に何回というのはここでは申し上げませんが、かなりの頻度で協議を進めてきております。

これから残された2ヶ月間で、直接会う形あるいはそうじゃない形も含めて、より協議検討していく場面が増えてくると思いますので、我々も実現に向けて交渉頻度をさらに増やしていきたいとも思っております。精力的に実現に向けて今後も取り組んでいきたいと思っています。

○苫小牧民報社

先ほどおっしゃっていたように、苫小牧と言ってもらえるというところに向けて、何か秘策とかはありますか。

■市長

チャレンジを決めたときからそうでしたけれども、やはり場所、それから私どもとしてもどこまで財政的な部分で取り組めるかというところが大きなポイントだと思っておりますし、それ以外にもやはり選ばれるためには、3月27日の期成会の方々を中心にやっていただいているような機運の醸成、あるいはファイターズの施設が来たときに、どれぐらいその効果を上げていけるかということも含めて、この苫小牧あるいは胆振日高の持っているポテンシャルというものが評価の対象にもなろうかと思っておりますので、十二分に球団側にもアピールをしながらぜひ苫小牧でやると言ってもらえるように、これからさらに取り組んでいきたいと思っています。

○北海道新聞社

日ハムの2軍繋がりでお伺いしたいのですが、苫小牧市は先日の市議会でJR苫小牧駅前再整備に向けた基本計画の策定時期を、当初予定していた8月から半年ほど延期すると表明しましてその理由を、日ハムの2軍施設が駅周辺に来る可能性があるからとしていたのですが、これは市としては、これまでは駅周辺を含む複数候補というふうにおっしゃっていましたがけれども、誘致候補地として駅を中心に考えていると捉えていいのか、それとも例えば苫小牧東インターチェンジの方とか市東部とかの線というのは消えていないのかというのを教えてください。

■市長

当初から市内のいくつかの場所を想定してファイターズ側とは交渉しておりますので、詳細は申し上げられませんが、駅前も候補地の一つであるという中で、駅前再整備の計画について交渉の経過を見なければいけないというところが、今現在ございますのでそのように議会では示させていただいたと思います。

○北海道新聞社

市東部とかそういう駅周辺以外の複数候補というのは、まだ変わっていないということですね。

■市長

我々としては、候補地の一つとしては持っておりますけれども、相手側のファイターズさんがどこがいいと考えているかはまた別だと思いますので、そのようにご理解いただけたらと思います。

○HTB

改めて確認ですが、複数の候補というのは具体的にどれぐらいあるのか。あとファイターズ側のほうからそれぞれの候補地についてどういうところを求められているのか、というところを改めて確認させていただきたいです。

■市長

これまで具体的に数字は申し上げませんが数ヶ所、駅前周辺あるいは苫小牧の東部含めて提案をさせていただいております。

ただファイターズさんは、やはり人の往来がしやすい場所、選手あるいは観客の方々が往来しやすいような場所を求めているのではないのかということは我々も協議の中で感じているところでございます。

○朝日新聞社

案件2の件なのですが、スルー化というのは新千歳空港駅で今止まっているものを南に延伸をして、どこかで千歳線を再度合流させるというイメージだと私は理解しているのですが、例えば30年の要望の中で、主としてどの辺で合流をさせたらいいのか、あるいは事業規模がどれくらいになりそうで、地元自治体としてどれくらいなら工事費の費用負担に応じられるかみたいな試算とかシミュレーションがあるのでしょうか。

■市長

具体の費用的なもの、総事業費あるいはそれに関わって自治体負担がどれくらいなのかという詳細は、特に持ち合わせてはおりません。

ただ絵としては、苫小牧駅から新千歳空港に直接繋がって、そのまま札幌方面に向かうような鉄道路線のあり方を提案をお願いをしていきたいところでございます。

○朝日新聞社

それが実現したあかつきには、千歳線は東西線みたいな形で2路線になるのか、あるいは既存の例えば植苗から南千歳間ぐらいの区間を廃止するような形になるのか、どういうイメージなののでしょうか。

■市長

苫小牧駅からそのまま新千歳空港に繋がって、新千歳空港から南千歳に抜けて、札幌にそのままいくというのが我々がずっと求め続けているところです。

○朝日新聞社

ここ30年の間北海道とは、どういう話し合いをやってきているのでしょうか。

■総合政策部長

長年要望してきておりますけれども、なかなか具体的な話にまで進んでいないというのが実情であります。

ただ私どもとしてはやはり新千歳空港まで直結するというのは市民も望んでおりますし、私達も不便を強いられているということがありますので、そこはどのような形であれ、直接行けるようなことを望んでいるというところでございます。

■市長

この件については今部長からもありましたように、長年30年以上にわたって要望してきていることですので、今回知事が国土交通省に対して要望を出されましたけれども、この中には当然このスルー化というものも含んでその機能強化、あるいは交通機能の強化というものを考えていただかないといけないと私は思っております。

今後様々な進め方の中で、国あるいは北海道との繋がりというのが当然出てくるのですが、このスルー化というものは強く賛同していただける自治体とも一緒になって、苫小牧だけではなくて広域で、あるいは関わる自治体と一緒に、本当にこれからもっと強く求めていきたいと思っております。

○朝日新聞社

苫小牧市ぐらいの自治体で賛同していただけたら、そうなるというところというところ、それからファイターズ2軍施設のように地域一体となってスルー化を目指すような期成会を苫小牧市が旗振り役となって作って、先ほどスピード感という話があったので、そういう形で進めていかれるのか、今後の進め方というか、スピード感という部分についてどのように進めていくかというところ、お答えできる部分があればお願いいたします。

■市長

元々前岩倉市長の時代から、nittan 戦略会議というものがありまして、胆振日高の全自治体が北海道新幹線の北回りを懸念して、その新幹線が来る効果をこの道南地区にもしっかりと呼び込もうと、胆振日高に呼び込もうと、いろいろな取り組みをしてきた経過がございました。

我々としてはそれを今一度募りながら、このスルー化ということにつきましても、ファイターズもそうですけれども、同じテーマ、あるいは政治課題について取り組めたらなという思いはあります。

今度の27日にファイターズ誘致のイベントがありますし、そのときに胆振日高全首長が集まるということになっておりますので、そういう場面でも課題を共有しながら、一緒に進めていくことができたらと考えております。

○STV

ファイターズ2軍誘致の件だったのですけれども、今後こういったアプローチをしていくかどうか市として盛り上げていくかというのを教えてください。

■市長

先日の報道で前澤新社長から2軍施設の行方についてのコメントで、最終的にやれると言われるかどうかだということをおっしゃられていました。

ですから、我々としても誘致に向けた様々な協議事項ありまして、その一つ一つをどうクリアしていけるかということかと思っておりますので、詳細は申し上げられませんが、そういったもの一つ一つファイターズさんとあるいは関係者としっかり協議しながら、乗り越えていって、何とか実現していきたいと考えております。

○STV

候補地というのは、現段階でどれぐらいあるかというのは、言えないことはないのでしょうか。

■市長

市内数ヶ所を候補地としてはありますけれども、当然その中でこれまでずっと協議してきていますので、ファイターズさんのほうでどこを見ていらっしゃるのかというのは我々としては把握しております。

○STV

その中の一つに駅前があるということでしょうか。

■市長

そうですね。駅前もその候補地の一つとして考えているということです。

○紙の街の小さな新聞社ひらく

今日の市長冒頭で6月には候補地を2ヶ所に絞り込むとの報道もございましたという発言があったのですが、どういったお話なのかという部分と、今までは6月の候補地の選定を目指すというふうに言っていたと思うので、あくまでも目指すだったので少しずれたのかなと思ったのですが、そこら辺の理由ですとか、現状教えていただければと思います。

■市長

先日の17日に前澤社長の記者会見を見ていて、6月に絞るといようなお話をされていたと聞いておりますが。

■総合政策部長

私どもとしては、そのような報道があったということを踏まえて、今日の発言になっております。

○紙の街の小さな新聞社ひらく

市のほうには特にそういった連絡というか、今まで思っていたものよりも決定時期がずれるのかなと思うのですが、その辺り何かありますでしょうか。

■総合政策部長

本当に最後2つ選んで競争するのか、それとも6月に最後1ヶ所決まるのかというところは私どもも定かではないです。どのように進むのかというのは、球団のほうがどのように考えられているのかということで、私どもはそこは承知しておりません。

○HBC

残りの期間、機運の醸成に繋げるということは、よく理解できました。

それ以外の部分、なかなか詳細が今交渉段階で言いづらい部分もあるかと思うのですが、財政的な部分で何か具体的に日ハムさんに対して、こうしたことをアピールポイントとして訴えていきたいというものがございましたら教えてください。

■市長

現段階で財政的な部分についてこちらでお示しできるものはないのですが、球場で2つ、あるいは室内練習場で1つ、ある程度のファイターズさんのイメージというものはこちらでも把握しておりますので、その中で国の補助や、民間の皆さんからのご支援等々で最終的にどれぐらいの事業規模に対してファイターズさんの負担であるとか、我々自治体の負担が問題なのかというのはまだまだこれからだと思っております。

○室蘭民報社

ファイターズ2軍誘致の関係で、従前から駅前が候補地の1つということで発表当初からお話あったと思うのですが、素朴な疑問なのですが、仮に駅前というところで候補地が苫小牧市として提案する部分として絞られた場合に、駅前に球場ですとかボールパーク、いわゆる街みたいな感じになると思うのですが、そういった場所が確保できるものなのかどうかというところが疑問なのですが、どのようにお考えになっていらっしゃいますか。

■市長

候補地を考えると、我々苫小牧市で持っている土地、あるいはそれ以外となれば当然民有地となるわけですから、その中で駅前となりますと民有地ということになります。

ですから、候補地のうち駅前になるということは、そういう民有地の所有者の方々との交渉が当然出てくるというものだと思います。これは我々だけじゃなくて、他市の例を伺っていても、報道ベースですが、同じようなことかと思っております。

そういった中で、関係する方々との協議が実現に向けてどこまで進むのかというのは非常に大きなポイントだと思っております。

○室蘭民報社

そうしますとある程度提案するにあたって、根回しじゃないですが、この辺になるだろうみたいな当たりをつけていって、所有権を持っていらっしゃる方、土地を持っていらっしゃる方、そういった方とはあらかじめお話じゃないですが、されていらっしゃるという解釈でよろしいでしょうか。

■市長

詳しくは申し上げられませんが、関係する方々とは協議をさせていただいております。

○HTB

スルー化のところ、日ハムの2軍誘致チャレンジ今こそちょうどタイミングであるというふうに書かれているのですけれども、この内容は先日の17日に話されているということでしょうか。それとも今単純にここでいいタイミングだと思うというふうに述べているのでしょうか。

■市長

JRのことにつきましては、30年以上にわたって要望をしております、これはいわゆる市民生活あるいはビジネス、観光、様々な点でこの苫小牧にあるいは苫小牧から西にある自治体、日高にとっても非常に重要なテーマであると思っております、であるからこそ最重点要望として、北海道や国土交通省に要望を続けている状況です。

我々としてはこの町の発展を考えたときに、JRの機能拡充ということが必要であると思っております、これは新千歳空港から苫小牧にアクセスする方々を増やすために必要であろうと、日本ハムファイターズの2軍施設が誘致実現すれば、イースタンリーグの日ハムファンの方だけではなくて、対戦相手チームのファンの方々も、多数こちらに来られることになると思いますから、これは空港からJRを利用して苫小牧駅を利用されるということが大いに想定されますので、そういった意味でより日ハム2軍施設誘致と、スルー化というのが機能的に繋がってくるのではないかと私は考えております。

○HTB

先ほど日ハム側としても交通のアクセスというものを重視していると考えられているようにおっしゃっていたと思うのですけれども、やはりその日ハム側としてもこのスルー化というものは気にされているとかそういったことはありましたでしょうか。

■市長

そこに関して今申し上げはしませんけれども、仮にJRの部分が機能として不足しているのであれば、我々としては他の交通手段も考えて2軍施設の誘致が実現した場合に往来する方々の交通アクセスをしっかりと確保するという事はやっていきたいと思えます。

○HTB

それはバスとか他の交通機関ということですよ。

■市長

そうですね。はい。

○朝日新聞社

ファイターズの件で確認なのですが、今年の6月に候補地が1本化されるという方向で皆さん、他市も含めて準備していたかと思うのですが、これが例えば先ほどの前澤社長からの2つに絞り込む、1つにしないということであれば、誘致活動の進め方で何か変更があることが想定されるのかどうか、苫小牧誘致にとんでもない隠し球を苫小牧市が持っていたけれど、先延ばしになったことでそれを明らかにする時期が遅くなるとかそういうような今後の活動の進め方の変更、そういうものは想定されるのでしょうか。

■市長

6月に2市に絞るという発信はファイターズの前澤社長からおっしゃられたことなので、その裏にどういうものがあるのかは私は計り知れませんが、仮にそれで時間がまだできるのであれば、もっと良い提案を我々のほうからしていく機会をいただけるかもしれませんので、それは非常に前向きに捉えて、とにかく選ばれるためにスピード感を持って我々としてはベストの提案をしていきたいと考えています。

<その他 案件以外について>

○NHK

2年前の3月25日に苫小牧市がヤングケアラー支援条例というものを全国に先駆けて制定されたと思うのですが、2年経って地域の方にもそういった問題があるというところが浸透してきたのかなと思うのですが、それでもなかなかそういった子供を支援するという難しさというのは変わらずにあると思うのですが、苫小牧市が全国で初めてそういうものを作ったという話を聞いたときには、凄いなというふう感じていたのですが、はたしてなぜ苫小牧市が作ったのだろうと思ったりもしまして、当時市長は議員さんとしてある程度そこに関してもいろいろな話は聞いていらっしやったと思うのですが、この2年その部分が解決とまではいきませんが、対応できているのかですか、市長としてこの問題についてどのように考えていらっしやるのかとか、その辺り伺えたらと思います。

■市長

ヤングケアラーについては私も公約に一部取り組みを入れさせていただいておりますけれども、そもそも非常に難しい問題だと思っております。

ヤングケアラーという定義がその定義に当てはまるかどうかと、その子供がそういった対象になりうるのかどうかというのは、その主観と客観の違いというのが非常にありますし、そもそもそういう難しい問題であるけれども、苫小牧市としては一歩踏み込んで条例を作り、そのヤングケアラーの課題に取り組もうというのがこれまでの動きだったと思っております。

今年度の中でヤングケアラーに関しても取り組みはしておりますので、後ほど部長からもお答えするかと思いますが、そういった一つ一つの取り組みをしながら、ヤングケアラーに対し

での理解であるとか、あるいは見る目を増やす、見る目を磨いていくというようなことを、やっぱり全市で醸成していくということがこの課題解決にはまず第一歩なのかなと思っておりますので、やれることはどんどん進めていきたいなと思っておりますので、ヤングケアラー条例自体はある意味では理念条例だと思っておりますので、その中身をこれから充実させていく作業が引き続き求められていくと考えております。

■健康こども部長

ヤングケアラー条例については基本理念を掲げております。我々健康こども部としての取り組みとしては、なかなか顕在化しにくい方々に対してどうアプローチをしていくかという中で、まずは学校に対して出前講座を実施しまして、ヤングケアラーというものに対して子供さんたちにまず理解をしていただく取り組みを進めています。

あとは地域のほうに出向いて、近所地域の方々のお子さんの状況をまず見守ってほしいこと、何か気になることがあれば市側に声を上げてほしいということをこの間地域にお願いをしてきました。

それ以外に子供さんたちの居場所をいかに用意するかということに今取り組んでおります。子供食堂しかり、地域の公共施設しかり、そういうところで子供さんたちに集まってきてもらって、その普段の中から少しでも変化というものを見ていって、そこから必要であれば支援に繋げていくことが、ヤングケアラーに限らずということになりますけれども、ヤングケアラーも含めてそういうようなお子さんを少しでも我々の方が見ていくというような形でこの2年間進めてきておりますので、令和8年度も同様の事業を継続していきたいというふうに考えています。

○NHK

そもそもどうして苦小牧市が全国に先駆けてこの条例ができたのかというところはなかなか理解できなかったところがありまして、まことしやかに言われるのが苦小牧市はシングルマザーの方が人口の割合としては比較的多いのですとか、貧困世帯が多いのですとか、生活保護を受給されている方が多いのですとか、何かそんなこともちらほら聞いたりはするのですけれども、そこは市長として何かこれが理由じゃないかというのがあったりするのでしょうか。

■市長

言われた中の情報がどこまで正しいのかというのはありますけれども、例えば生活保護を受給している割合も苦小牧市は道内でトップのほうではなくて7番目とかですかね、そういった皆さんも感じている中でお話されている部分もあると思いますが、いずれにしてもそういうヤングケアラーというものに当てはまるお子さんたちがいらっしゃるのではないかと、これは現場も含めてそう感じている中で、条例制定に至ったということだと思いますので、まずは今部長からもありましたけれども、当該子供たちが自分がヤングケアラーだということに気づかずにいて、助けの手を求めるのであれば、それを求めたいという方も出てくるかもしれませんし、

そういった理解、あるいは周りの見る目が増えていくこと、こういうことがやはり大事なのではないかと思いますので、なぜ全国に先駆けてというところは、そういったことにやはり懸念する声の関係者の中で多かったからだと思っておりますので、そのようにご理解いただけたらと思います。

○紙の街の小さな新聞社ひらく

イラン情勢についてのお尋ねだったのですけれども、今後の様々な影響いろいろと考えられると思うのですけれども、特に苫小牧の場合自動車関連産業の集積ですとか、割と影響を受けるような産業があるのかなと思うのですけれども、市の方で現段階どのように影響を捉え、すでに道のほうでは原油高に相談窓口を開設していますけれども、今後考えられる市としての対策ですとか対応ですとかを教えていただければと思います。

■市長

議会でもイラク情勢についていろいろ質疑がありましたけれども、そういったものが市民生活に影響を及ぼすことは大いにあり得ると思っておりますので、まず紛争をいち早くやめていただきたいと思えます。

現在そういった影響がどのように出てくるかというのは、政府の発信も含めて注視をしていきたいと思っておりますけれども、先日トイレットペーパーがなくなるのではないかとの発信に対して、経産省がそういったことはないということをその段階での見解を示されましたけれども、そういったものも含めて市民の皆様には、報道でのいろいろな情報はありますけれども、冷静な受け止めをまずしていただきたいなと思えますし、国のほうからも動きが何かあれば出てくるとは思えますけれども、そういった国の動向も踏まえながら、我々も状況に応じて、あるいは必要に応じて対応していくことがあろうかと思っております。

○HBC

IR 関連の予算というものが議会で承認され、それを受けて改めて新年度どのような考え方のもと、具体的にどのような取り組みを進めていく予定か教えてください。

■市長

先日議会で予算を通らせていただきましたけれども、詳細については後ほど部長から説明いたしますが、私としては市長公約の中に IR の誘致を掲げさせていただいて、選挙当選させていただいておりますので、まず公約実現ということを考えて、就任後いち早く取り組みたいと思っていたところがございますが、先般の国あるいは道の様々な IR に関しての動きの中で、苫小牧としてもその実現に向けて様々な形で一緒に歩みを進めていく、協力できることはしていくという中で、私の公約実現という点からも、来年度の中で取り組みをしていきたいという思いで今回の予算提案をさせていただいております。

議会ではいろいろ議論ありましたけれども、予算も通らせていただきましたので、我々とし

てはそれをしっかりと執行していくという義務がありますから、そういった思いで、令和8年度 IR 推進に向けた準備取り組みをしていきたいと思っております。

■総合政策部長

本市では平成30年に策定しました苫小牧国際リゾート構想というものがございます。その中で事業への投資額ですとか想定訪問者数、各種波及効果などといったものを試算しております。その後作ってからこれまでに令和5年度には国による初めての区域整備計画の認定が行われたことですとか、インバウンド需要の回復、さらには候補地周辺で新産業の集積が進んでいるといったような統合型リゾートを取り巻く環境が変化しておりますので、そのような変化を踏まえて現状の分析を改めて行うということを考えております。

そういった取り組みを通じまして、統合型リゾートが地域に及ぼす効果など時代に即した形で検証しまして、市民の皆さんにも理解していただけるように情報提供していきたいと考えております。

○HBC

公約としてそれをやっていきたいということは理解できました。

改めてなぜやっていきたいかというところと、あと市民の機運醸成という観点では、今後どのように取り組んでいくお考えでしょうか。

■市長

IRを誘致したいという思いは様々な点がありますけれども、やはり地域経済の活性化に大きく寄与していただけるというのが、私としては議員時代から前市長と思いを共にしながら進めてきているものであります。

雇用の部分あるいは観光という視点から、関係人口、交流人口を生んでいくこと、こういったことができるということがIRの強さだと思いますし、今バレー構想がございまして、半導体とあわせて、ソフトバンクのデータセンターですとか、あるいは様々な産業企業の集積が苫小牧周辺でもありますから、こういった関係の特にインバウンド、海外の富裕層も含めて、そういった方々がIRに来て、仕事をしながらも楽しんでいただけるようなそういった環境を作るとするのは、更なる地域経済の発展に、あるいは苫小牧だけではなくて北海道の発展に大きく寄与するものですので、IRは非常に大事であると思っております。

2019年に私が議長をさせていただいておりましたけれども、苫小牧市議会でIR誘致の議決をいたしました。それからだいぶ日は経っておりますので、改めてこのIRに対しての市民のご理解あるいは懸念される部分についても、市民の声というものはしっかりと受けとめながらも機運の醸成というものは図っていく必要があるかと思っております。

北海道の動きもでてくるかと思いますが、そういったものと連動しながら、動いていかなければいけないなと思っております。

○HBC

おそらく予算に入っている海外の視察というものも予定されているという中で、現時点で何かこれに関して具体的なスケジュールですとか、例えばどこの国なのか、これは苫小牧としてどのような統合型リゾートを目指すのか、やはりどの国を選ぶかで少し変わってくると思いますのでこのあたりで現時点で何かお話いただけることがあれば教えてください。

■市長

私としては今申し上げたとおり、2019年一旦誘致の動きがあったときから、時間が経っており、特にコロナ時期を経てますので、それ以降現在IRのあり方も結構変わってきているところがあるとこれは報道ベースも含めてそのように認識しております。

ギャンブル依存症等を懸念する声がありますけれども、カジノによる収益の割合というものが、今新たなIRにもゲーミング以外の部分でその収益構造、収益の割合が増えていくというようなお話を聞いていまして、例えばスポーツ、あるいはそれ以外のいわゆるエンターテインメント、そういったものによる収益も割合としては増えてきているIRがあると伺っておりますから、そういった現状のIRのあり方をしっかりと踏まえた上で、市民にかけていくような発信をこちら側もできればなというのも考えておりますので、そういった趣旨で海外での視察というものを今回提案させていただきました。

■総合政策部長

どこに行くかというお話ですけれども、現在予定しているのは北米およびシンガポールへの視察というのを予定しております。ただし詳しいスケジュール等は、今後検討した上で決定したいと考えております。